

転移性消化管腫瘍の臨床病理学的特徴に 関する検討

情報公開文書

日本赤十字和歌山医療センターでは、以下にご説明します研究を実施します。この研究への参加を希望されない場合は、研究不参加とさせていただきますので、下記のお問い合わせ先にお申し出ください。またお申し出された場合でも、いかなる不利益を受けることはございませんので、ご安心ください。

研究目的

転移性消化管腫瘍の転移様式は、1.リンパ行性・血行性による遠隔転移、2.リンパ節転移や腹膜播種からの二次的浸潤、3.直接浸潤の3つに分けられますが、本検討においては1の狭義の転移性消化管腫瘍を指します。転移巣は粘膜層深層および粘膜下層で増殖し、初期には腫瘍は非腫瘍性上皮で覆われ、SMT様の形態をとり、腫瘍が増大すると中央に潰瘍形成を生じ、Bull's eye lesionと表現される形態を呈するとされております。ただ、転移性消化管腫瘍は稀な疾患であり、症例報告は散見されるものの多数例での検討はほとんどありません。原発癌と転移性消化管腫瘍の鑑別に苦慮することも多く、当院の転移性消化管腫瘍の臨床病理学的特徴を検討することで、今後の診断の一助となると考えます。

臨床研究は医学の進歩に欠かせない学術活動ですが、ご自身の診療情報などが利用されることを望まない場合、これを拒否する権利があります。その場合は、下記までご連絡下さい。研究対象から除外させていただきます。なお、研究協力を拒否された場合でも、診療上の不利益を被ることは一切ありません。

研究資金・利益相反について

該当する利益相反はなく、研究資金は日本赤十字社和歌山医療センターから提供されます。

研究計画書などの入手・閲覧方法・手続き

研究計画書などは入手閲覧可能です。ご希望される場合は、下記までお問い合わせください。

個人情報の開示にかかる手続きについて

ご自身の情報を閲覧可能です。ご希望される場合は、下記までお問い合わせください。

研究責任者

脇田 碧 日本赤十字社和歌山医療センター 消化器内科 医師